

②石狩川下流自然再生事業（幌向地区）^{ほろむい}

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所

キーワード 湿地帯の復元・再生、地域連携・協働

全建賞審査委員会の評価ポイント

遮水盛土により1万㎡を超える湿地環境を創出し、専門家や地域団体等と連携した約8,000株の湿生植物を導入するとともに、事業完了後の保全活動の継続を見据え、地域の関係組織を構成員とした「ほろむい七草の会」を設立し、地域主導の連携体制による湿地保全と観光振興を実現した点が評価された。

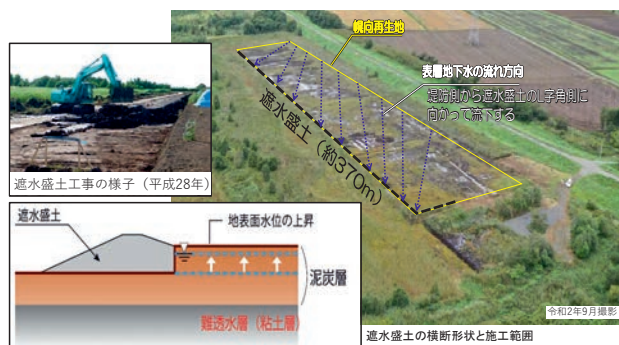
1. はじめに

本事業は、開拓期以降、流域の発展を目的とした夕張川の治水事業や周辺の農地開発が進展した反面、それに伴い消失の危機にあった幌向原野の湿原環境等の復元・再生を目的とする事業である。専門家、地域団体、自治体等と連携し、湿原植物等の移植や湿原の再生に取り組むだけでなく、観光振興や地域の活性化にも取り組んでいる。

2. 事業の概要

夕張川の高水敷に湿生植物が定着しやすい環境を整備するため、「遮水盛土の整備による導入基盤の形成」を行った。湿原環境を創出するには、高水敷の表層地下水位を高く保つ必要がある。そのため、表層地下水位の流れを分析し、治水安全度を確保しつつ、高水敷がバスタブ状になるように遮水盛土を整備した。

また、湿地環境の専門家と協力し、湿生植物の生育手法を開発した。目標とする湿原の構成種には、先駆的に定着する植物や育苗・増殖に関する知見が少なく研究開発を要するものが含まれる。このため、成長が早く乾燥に耐える種を先に導入するなど、順応的管理の原則に従い、植生の定着状況を確認しながら段階的に導入を進めた。湿地環境の専門家からの助言も踏まえながら、地域活動団体や地域住民と協働して湿生植物の導入作業を進め、外来種駆除等の必要な管理作業も行った。平成29年度より継続して実施し、これまでに約8,000株を導入した。



遮水盛土の整備

3. 事業の成果

遮水盛土の整備と湿生植物の育苗・導入作業により、事業開始前には0㎡であった湿生植物の生育面積は、約11,500㎡まで増加した。

また、地域との協働により、幌向再生地で開催されるイベント回数や参加者数は年々増加しており、近隣の小学校での地域学習、河川堤防のごみ拾い、フットパスを活用した取組や外来種駆除活動等が継続して実施され、地域のにぎわい創出に寄与している。



事業実施前後の幌向自然再生地



近隣小学校の地域学習

地域団体主催の外来種駆除と堤防のごみ拾いイベント

4. おわりに

事業完了後も地域の関係組織を構成員とする「ほろむい七草の会」が設立され、地域主導の連携体制により、保全活動が継続されている。



幌向地区の自然再生の推進体制